

效範連区 市長と地域との懇談会

日 時：令和 6 年 6 月 26 日（水）
午後 7 時から午後 8 時 30 分まで
場 所：西部コミュニティセンター
参加者：18 名（自治会及び地域団体）

【内 容】

市からの報告 テーマ：ごみの減量について

- ・プラスチック・剪定枝などの分別が着実に進んでいる。
- ・分別が進んだので、燃えるごみの量が減り、晴丘センターの負担は減少したものの、目標には達していない状況である。
- ・ごみ全体の総量では前年から 3 % 程の減少と大きく減っていない。
- ・燃えるごみの中で一番多いのは調理くず、食べ残し、手付かずにそのまま捨ててしまう食料品であり、市としてフードロスを少なくしていきたい。
- ・尾張旭市や長久手市と足並みをそろえ、市民の皆さんのごみ減量への取組状況を検証したいとの思いがあり、従来のごみ袋の料金は据え置きのままにした。ごみの総量を削減することに引き続きご協力をいただきたい。

市からの報告 テーマ：下水道料金の値上げについて

- ・現在 6 月市議会にて、下水道料金の改定について上程している。
- ・下水道料金の料金改定は 24 年ぶりとなる。
- ・下水道事業は公営企業であり、本来は受益者負担で経営が求められるところ、汚水进行处理する費用の約 65 % しか使用料で賄えていない。
- ・残りの 35 % は税金で補填している現状である。
- ・経費回収率は本来 100 % が求められるもの。今回の改定によって、尾張旭市、長久手市と同水準の経費回収率 80 % となる予定である。

地域の課題：地域が抱える課題について

（地域清掃等について）

- ・地域清掃をし、古い地域清掃用の回収袋で出したが、回収されなかった。地域清掃用の古い回収袋であっても、地域清掃の場合は回収をお願いしたい。
- ・地域でオオキンケイギクの清掃活動を行っている。活動実施の際に、環境課だけでなく複数の部署に申請が必要な状況である。1 つの部署で申請が完了するとよい。

(担い手の不足について)

・民生委員・児童委員の任期は3年となっているが、次の担い手がいない。そのため、就労しながら委員を続ける人も多い。ただ、仕事時間中に委員の仕事があることもあり、仕事との兼ね合いが問題となっている。事業者への顕彰制度を設けるなど、委員が働きながら委員を担える環境づくりが必要ではないか。

・民生委員・児童委員の定年は75歳となっているが、担い手不足のため、定年の延長も検討してほしい。

・民生委員・児童委員は子どもから大人までのサポートをしている。負担も多く担い手がいない。できるだけ若い人にも参加してほしい。

・女性防火クラブは、町内会長が兼務しているためメンバーに不足はないが、役員の担い手がいない。役員の高齢化も問題である。自発的なボランティアができる人材が減少している。

・保健推進員の活動が地域で広まるとよい。推進員の数も少なく、高齢のメンバーで活動している状況。

・時代が変わり、多くの人と同じ方向性で物事を進めていくのが難しくなってきた。同じ方向で取り組める少数のメンバーで、活動の「量」ではなく「質」の向上を目指す必要がある。

(西部コミュニティセンターについて)

・西部コミュニティセンターが老朽化している。地域の子育てサロンなどで利用しているため、利用者の安全確保の面でも改修が必要と考える。地域が所管しているが、改修に際して、市の財政的支援を検討してほしい。

・今年度末でセンターは閉館する予定。現在センターを利用している団体の活動は公民館等に引き継げるとよい。今後市の担当部署とも協議していく。

(地域団体の会員数の減少について)

・老人クラブの会員数が減少しており、市の補助基準である30名を確保することが難しい。老人クラブの存続のためにも人数基準の緩和を検討してほしい。

・地区社協の会員数はこの10年で半数に減少した。会費(1000円/人)の負担もあり、効範では町内会で会費を負担しているところもみられる。地区社協の活動維持のため、助成金の増額を検討してほしい。

・子ども会の数も減少している。役員の担い手がなく、同じ人が役員を長く続けている状況である。

・市の子ども会の助成金について、単位子ども会を対象としており、効範のように連区子ども会で活動しているところが対象にならない。子ども会は会員数が減少しているため、地域の実情に応じた助成のあり方を検討してほしい。

（公民館について）

・今年度から指定管理制度が導入されたため、運営費の確保が心配である。そのため、無料で利用してもらえる頻度が少なくなっている。

（ごみ減量について）

・小学校では、ごみ問題について学習している。分別の方法を学ぶ機会となっている。

・高齢者の見守りを行うなかで、高齢者が体力面などで、きちんと分別することが難しいケースが見受けられる。高齢者にとって取り組みやすいごみ減量の方法を考える必要がある。

・プラスチックごみの回収頻度を多くしてほしい。

・生ごみ削減のため、コンポストが有効だと思うが、購入補助金の手続きが煩わしく、わかりづらい。

（交通ルールについて）

・交通安全活動の一斉大監視に協力しているが、「監視」という表現が活動となじまないように思うので、名称の見直しを検討してほしい。

・交通立番を通じて、マナーが守られていないと感じる。今一度、「モラルの向上」などの勉強会を開催してはどうか。

・学校を通した交通マナーの周知が必要ではないか。

（市との連携について）

・市民の声を聴き、市民の思いや活動を肌感覚で感じられるような職員が増えることを期待している。行政と市民（地域）とが同じ方向を向き、問題点を共有することが大切だと考える。

（その他）

・保育園の入所判定の方法を検討してほしい。

・保育事業にも民間事業者が参入し、「瀬戸らしい保育」が薄れてきていると感じるため、瀬戸市の保育の魅力を発信してほしい。

・保育士の人材確保のため、保育園への補助を検討してほしい。